

於大のみち再整備基本計画(案)の概要について

1 於大のみち再整備テーマ

「歴史を^{まと}纏い 未来を^{つむ}紡ぐ 於大のみち」

東浦の地で育まれてきた歴史・文化・地域風土の景観は、現代のまちを形づくる色打掛^{いろうちかけ}のように、時代ごとに様々なまちの色合いとしてまちを彩り豊かに着飾^{きかざ}ってきた。

於大のみちは、これら東浦町のまちの魅力を体感できる象徴的な場であり、新たなまちづくりにおいて主要な拠点となる。

於大のみちに訪れることで様々な打掛^{まと}を纏うように過去から現代に続く東浦の魅力やまちの価値を体感し、日々集う人々が多彩な交流と活動に勤しむ^{いそ}ことで新たな町の色となる糸を紡ぐ場となる。

現代から未来に向かって新たな糸を紡ぎ、まだ見ぬ打掛^おを織ることで、明日のまちへ、町民へ、東浦の未来へと導いていく。

2 於大のみちのデザインコンセプト

「まちの記憶を^{たど}辿り、次世代への歩みを広げる、流れゆく風景の回廊^{かいろう}」

東浦の歴史と未来への新たな活動の糸が紡がれる様子を「人の流れ」「歴史文化の流れ」「吹き抜ける景観」の各要素が交じり多様な波及効果を創出する空間を目指す。

3 於大のみちの各広場の機能

機能	・生い立ち広場:歴史と文化の発信と迎いの広場	⇒歴史情報発信
	・再会広場:人々が集い憩う、活動と交流の広場	⇒地域交流の場
	・門前広場:まちへと広がる眺望の広場	⇒憩いと休息空間

既存の彫刻・モニュメントはそのまま活かす

生い立ち広場

○生い立ち彫刻

於大の方の生い立ちをイメージして設置された彫刻、父である水野忠政や母の於富をかたどった石像がある



再会広場

○時を刻むモニュメント

於大の方と家康が再会したエピソードを元にしたモニュメント、石造の空穴を太陽の光が通り抜けると、石と重なる



門前広場

○扉のモニュメント

於大の方が出家したエピソードを元にしたモニュメント、「新たなる世界」「永遠なる宇宙」「東浦町の拠点」への扉をイメージ



4 各広場の基本計画(案)

基本計画(案)の主な内容として、ベンチの設置・足元の低位置照明の設置・モニュメント説明看板の設置・於大の方や東浦の歴史の説明看板の設置等を取り入れています。なお、各広場の計画(案)の内容は、於大のみち基本計画(案)【生い立ち広場】、【再会広場】、【門前広場】のとおりです。

5 その他

基本計画(案)に記載の内容は現時点での整備イメージであり、実際の整備内容とは異なる可能性があります。